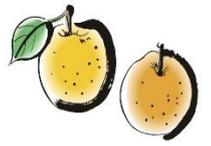


# グリーンメール



鳴門藍住農業支援センターだより

令和3年度  
Vol.2

〒771-1220 徳島県板野郡藍住町東中富字船傍示29  
TEL: 088-692-2515 FAX: 088-692-0355  
[http://www.pref.tokushima.lg.jp/shien/naruto\\_aizumi/](http://www.pref.tokushima.lg.jp/shien/naruto_aizumi/)

つじ ひでき  
鳴門市の**辻 秀樹氏**が

県優秀経営者として表彰されました！

鳴門市のつじひでき 辻秀樹氏が、令和3年度徳島県農林漁業優秀経営者選定事業で知事賞を受賞し、本年6月30日に県庁で開催された表彰式において知事から表彰を受けました。辻氏は経営の中心作物としてさつまいもを栽培しており、裏作の大根と組み合わせることで安定した経営を行っています。

里浦農業協同組合と里浦土地改良区の理事を務め、地域農業の発展に寄与される一方で、家族経営協定の締結や週休2日制・育児休業制度の導入など、働きやすい職場づくりにも積極的に取り組んでおられます。



←今回の受賞者と飯泉知事の記念撮影。右上が辻氏。



## 管内青年クラブが活動の一環としてシフォンケーキを販売しました！

鳴門藍住地区農業青年クラブが、活動の一環として、地元のなると金時をトッピングした「なると金時の米粉シフォンケーキ」を令和3年5月7日から期間限定で、道の駅いたのにて販売しました。



青年クラブが板野町ふるさと味づくり研究会に「なると金時」を提供して、シフォンケーキを共同開発したもので、売行きは好調、ほぼ完売している状況です。

鳴門藍住地区青年農業クラブは、鳴門市と板野郡で活躍している若手農業者が集う団体で、今回の取組のほかにも、農業技術の向上を目指した学習会やイベントを実施しています。新規就農された方をはじめ、クラブ活動に興味のある方は、是非支援センターまで、お声がけください。



## 「クビアカツヤカミキリ」に注意しましょう！

「クビアカツヤカミキリ」は、2018年1月から「特定外来生物」に指定されている害虫です。

幼虫はモモ、ウメ、サクラなどの樹木に寄生し、内部を食い荒らして枯らしてしまいます。幼虫が寄生した樹からは大量のフラス（木くずとフンが混じった物）が出ます。

成虫は6月下旬から8月上旬に羽化し、300～500個の卵を産みます。

被害を増やさないために薬剤防除のほか、枯れた樹の伐採をお願いします。伐採した樹をそのまま放置しておく、中にいる幼虫や蛹が孵化し発生源になるので、焼却や穴を掘って埋めるなど適切な処理をしてください。根の方にも入っている場合がありますので、切り株が見えなくなるくらい土に埋めてください。

※クビアカツヤカミキリは「特定外来生物」に指定されているため、環境省の許可なく生きたままの保管や移動ができなくなっています。捕まえた場合はその場で殺処分してください。



クビアカツヤカミキリの成虫



フラス発生状況

## 熱中症に気をつけましょう！

最近気温が上がり、暑い日が続いています。

毎年7月から8月の間で**熱中症が多発**し、令和元年度には農作業中に熱中症で死亡した人が全国で29人も出ています。これからの時期は特に炎天下での作業になるため、こまめな休憩をとりましょう！

### 農作業で心がけること

- ・日中の気温が高い時間帯を外して作業を行いましょう。
- ・のどが乾いていなくても、**20分おきにコップ1~2杯以上の水分補給**をしましょう。
- ・休憩時は日陰で作業着を脱ぐなど、できるだけ涼しくしましょう。
- ・単独作業を避け、**2人以上の作業や時間交代制**などで互いに体調を確認しましょう。
- ・ビニールハウスは特に熱がこもりやすいので、風通しを良くして作業しましょう。
- ・めまい、吐き気、頭痛、手足のしびれや体のだるさなど、**少しでも体調不良を感じたときはすぐに作業を中断**して、体を冷やす、水分補給をするなどの応急処置を行いましょう。

熱中症予防で最も大事なことは、**無理をしないこと**です。特に70歳以上の方は暑さやのどの乾きを感じづらく、死亡数も全体の80パーセント以上を占めています。**少しでも体に違和感を感じたらすぐに休み**、のどが乾いていなくても**こまめに水分補給**をして、熱中症にならないようにしましょう！

農林水産省が提供している「**MAFFアプリ**」には熱中症警戒アラートを通知する機能があります。

熱中症になりやすい日を教えてくれる便利な機能なので、予防のためにアプリをダウンロードしておきましょう。



## 7月・8月・9月の栽培管理

### 水稻（水管理について）

1株あたり15～20本の莖数が確保できたら、小さなひびが入る程度を目安に中干しを行いましょう。中干し後は間断かん水を行い、草勢の維持に努めましょう。出穂前後2週間程度は、水を切らさない管理が必要です。また、収穫前の早期落水は、品質・収量低下を招くので気を付けてください。

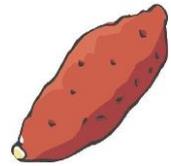


いもち病や斑点米の原因であるカメムシ類に注意しましょう。カメムシ類の耕種防除として、生息場所となる畦畔の草刈りが有効ですが、出穂の10～15日前までに終わらせましょう。（出穂直前の除草は、カメムシをほ場内に呼び込むことになるため行わないでください。）

籾の85%が熟れた頃が刈り取り適期です。刈り遅れると品質が落ちるので注意しましょう。

### かんしょ

7月になるとシロイチモジヨトウやナガジロシタバなどの発生が見られるようになります。害虫の発生が多くなると防除効果が低下するので、早めに薬剤で防除を行ってください。プレバソフフロアブルやフェニックス顆粒水和剤だけではなく、ディアナSCやアフーム乳剤などタイプが違う薬剤も使用してください。



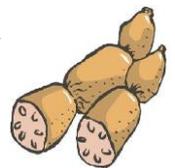
梅雨明け以降、気温が高く雨が少ない傾向がここ2、3年続いています。5月中旬以降の定植では7～8月に土壌水分が必要となるので、乾燥が続く場合はかん水を行ってください。

### れんこん（イネネクイハムシの防除、腐敗病対策について）

イネネクイハムシは6月下旬頃から成虫が産卵し、幼虫はれんこんの根を食害するとともに、れんこんにも傷をつけます。前作の収穫中に越冬幼虫が確認されたほ場では、早めの防除を行いましょう。

腐敗病が懸念されるほ場では、水温の上昇を低減するため、葉が水面を覆うまでの間、深水管理を心がけましょう。

腐敗病対策として太陽熱土壌消毒があります。地温の上昇しやすい7月の梅雨明け後から8月が処理適期となりますので、腐敗病発生ほ場では実施をご検討ください。実施方法等については、農業支援センターにお問い合わせください。



### えだまめ

開花期から結実期に土壌を乾燥させると着莢数が少なくなりやすいので、早めにかん水してください。収穫間近になったらかん水を行い、子実の肥大を図りましょう。収穫適期は短いので、過熟にならないうちに収穫してください。早朝涼しいうちに収穫し、収穫後は品質を保つために冷蔵庫で保管してください。



## ブロッコリー・カリフラワー（育苗管理について）

苗立てのセルトレイは200穴または128穴を使用し、育苗培土は与作N-150、愛菜2号等を利用しましょう。

セルトレイは、生育むらや病原菌の感染を防ぐため、直接地面に置かないようにしましょう。

高温時の育苗は、は種後乾燥防止のため不織布等でべたがけを行い、発芽後は徒長させないように直ちに取り除きましょう。

晴天日の日中は、遮光率40%程度の寒冷紗（白、シルバー等）で遮光しましょう。かん水は徒長防止のために、朝十分行いましょう。

は種後10日後頃から肥料が切れてくるので、キッポ青またはメリット青500倍液を5～10日毎にかん水を兼ねて施しましょう。

根こぶ病や苗立枯病の多発ほ場に定植予定の場合は、ランマンフロアブル等の登録薬剤をトレイ灌注しましょう。

チョウ目害虫防除のため、定植3～5日前にプレバソン等の登録薬剤をトレイ灌注しましょう。



## いちご

### <育苗管理>

高温対策として、育苗床の風通しを図り、鉢間隔を広めにとります。また、梅雨明け後は、寒冷紗等を使用し、対策に努めましょう。

過湿・乾燥を防ぐため、こまめにかん水しましょう。

炭そ病・うどんこ病・ハダニ等の防除対策に努め、良質な苗を作りましょう。

特に炭そ病については、雨よけや水のはね返りを防ぎ、必要以上に窒素を与えないことが重要です。また、発病株や切り離し後の親株は、早急に処分しましょう。

置肥は8月上旬までとし、花芽誘導期に窒素が少なくなるように管理します。さらに、芯止まりの発生を防ぐため、様子を見ながら微量元素を含んだ肥料を葉面散布します。

### <本ばの管理>

完熟堆肥等を施用し、土作りや土壌消毒をしっかりと行いましょう。

定植前後は、うどんこ病、ハダニ類、アザミウマ類などを徹底防除しましょう。

定植後2週間は少量多かん水により活着を促進しましょう。



## かき

7月に入ると生理落果が落ち着いてくるので、1結果枝1果を基本とし、葉数15～20枚に1果になるよう仕上げ摘果を行いましょう。梅雨が明けて乾燥が続く場合は、かん水を行いましょう。



7月までは「落葉病」に感染しやすくなります。雨の後は防除を徹底しましょう。「炭疽病」は8月から9月の降雨で感染します。台風や大雨で多発するため、降雨前後はしっかりと防除しましょう。枝病斑から胞子が形成されるので、見つけ次第、切り取って園外に持ち出し処分しましょう。

カキは風に弱く、台風に遭遇すると落葉、果実のすれ、枝折れ、樹の倒伏が予想されます。防風ネットを設けるなど、事前対策をしっかりと行いましょう。

園地を見回り、日焼け果や擦れ果などの商品性の低い果実は早めに摘果しましょう。



Facebookはじめました。

鳴門藍住農業支援センター

